

兵庫 西宮 芦屋 支部 ニュース

No. 272
2009・2・25

発行 兵庫 西宮 芦屋 支部
兵庫 西宮 芦屋 支部
連絡先 兵庫 西宮 芦屋 支部
電話 〇七八(三九三)一八〇一

第2回レセプト電子送信問題検討会

オンライン請求義務化の問題点と対応について交流

西宮・芦屋支部は1月31日、西宮勤労会館で、「レセプトオンライン請求」の対応の実際―医療現場の混乱の中から―をテーマに第2回レセプト電子送信問題検討会を開催、医師・スタッフら41人が参加した。第1回検討会でも話題提供した田中慎一氏(株)フォーメダイカルが講師を、広川恵一先生(広川内科クリニック)が司会を務めた。松島先生の感想文を掲載する。

レセプト電子送信問題

検討会に参加して

1月31日に西宮勤労会館で行われた『レセプトオンライン請求』の対応の実際―医療現場の混乱の中から―に参加させていただきました。

レセコンのある医科診療所では2010年4月以降、その他の医科・歯科診療所では、一部を除き2011年4月以降は、オンライン請求以外認められない方向にあります。合理化には反対しないものの、この方式が義務化された場合、対応できない開業医は廃業せざるを得ない事態となり、「医療崩壊」に拍車をかけることとなります。一人の廃業も出さないような方法を見いだそうという、司会の広川恵一先生の熱いメッセージのあと、レセ電業者であるフォーメ



講師の田中氏(左)と司会の広川先生(右)

ダイカル(株)の田中慎一氏から、対応に對するレクチャーが始まりました。まず、レセプト電算請求の現状が示され、現時点では21道県が未対応であるが、こちらは基金・国保ともすぐに整備される見通しであること。また、東京都での請求形態はオンラインレセ電2%、電子媒体レセ電20%、レセコン紙請求60%、手書き請求18%であり、近畿も似た状況であることが示されました。その後、これから導入を目指す医療院の対応手順を示していただきました。まず、



オンライン請求対応への不安を解消しようと聞く参加者

ネット回線の準備ですが、今、ISDN回線を引いている医院は、このままでも使え、一番安上がりではあるが、送信に時間がかかったり、混み合った時に繋がりにくいと欠点が見られました。NTTにフレッツ光を依頼した場合、使えるまでに約一カ月は見ておく必要があります。また、医師会などの共有のオンライン請求の話も出ましたが、責任の所在の問題もあり実現へのハードルは高いと言われていました。次に機材ですが、普段インターネットを見るパソコン以外に、送信専用のパソコンを用意する方が安全であり、もちろん、これにもウイルス対策ソフトを入れ、セキュリティを確保する必要があります。さらに情報漏洩防止のため、電子証明書を取得する必要があります。手書き、あるいは紙レセ提出の方は、まずフロッピー・CD提出に取りかかる方がスムーズにいくと説明されました。この段階で、氏名の旧漢字やICD10病名への統一などに約2カ月見しておく必要があり、さらに紙請求とフロッピーの併用請求が2〜3カ月かかるため、合計半年は見えておかなければなりません。費用の面では、一番お金のかかる手書き医院の場合、東京では200〜300万円と言われているようですが、フォーメダイカルでは約160万円、紙レセ提出だけは40〜60万円、フロッピー提出の場合4千円〜20万円と提示されていました。

松島洋之(松島医院)

第21回漢方研究会 (薬科部合同)

漢方薬理学の最近の知見について

日時 3月14日(土) 午後2時半〜4時半

会場 兵庫県保険医協会会議室

JR・阪神元町駅より南へ徒歩7分・神戸フコク生命海岸通ビル5F

講師 牧野 利明 先生 (名古屋市立大学准教授)

司会 川崎 史寛 先生・長光 由紀 先生

(西宮市・川崎医院) (伊丹市・ウイング 調剤薬局)

協賛 株式会社ツムラ 参加費 無料

漢方薬は現代医療の中においては、西洋薬では対応しにくい疾患に対しても効果を示すことがあり、なくてはならない存在になってきている。漢方薬は本来ならば漢方医学理論に基づいて使用されるべきものだが、エビデンスが必要とされる現代医療においては、漢方薬の作用機序の解明が求められている。ところが、漢方薬を西洋薬と同じ薬理試験方法で試験すれば、その力価は同効の西洋薬と比較してたいへん弱いものとなり、現代医療の中の漢方薬の存在意義が説明できないものになってしまう。

演者は漢方医学理論を現代医学で翻訳することを目指し、漢方薬の原料である生薬に付随している中医学理論に基づいた薬理研究を行っている。本講演では、これまでの研究成果として、附子の温裏去寒作用、石膏の消熱瀉火作用についての動物実験の成果と、これまで漢方薬理の研究手法として一世を風靡してきた血清薬理学の限界とその克服について紹介したい。(牧野 記)

お問い合わせは担当事務局・岡林、伊藤、横山まで

Tel : 078-393-1801 Fax : 078-393-1802

第3回胸部X-IP読影会

診断に苦慮した症例持ち寄り検討

西宮・芦屋支部は1月30日、西宮渡辺心臓血管センターで、第3回胸部X-IP読影会を開催、原秀樹先生(はら内科クリニック)がアドバイザーを、橋野盛彦(橋野医院)が司会を務め、14人が参加した。米倉康博先生(よねくらクリニック)の感想を掲載する。

X-IP読影会に参加して

兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部主催の第3回X-IP読影会に参加いたしました。消化器科外科、肛門科の私にとつて、比較的撮影機会の多い胸部X-IPでしたが自信ある診断ができずにいました。



症例を解説する原先生(中)と司会の橋野先生(左)

前回の読影会では、はら内科クリニックの原秀樹先生による胸部レントゲンに何が映っていて、どう読影するかを基礎から教えていただきました。こんな授業を学生時代に受けていれば、よりの確に診断できたのにと悔やまれました。

今回もアドバイザーとして、読影ポイントとCT陰影との対比、経過予測など多岐にわたる解説をしていただきました。最近ではX-IP上すりガラス陰影という言葉は使用しないことなど全く知りませんでした。また、案内患者さんは、吸入ができていないことが多く、時々チェックが必要。吸入ステロイドにスプレーサーを用いることで、



持ち寄った症例を検討する参加者

世話人会だより

西宮・芦屋支部は12月26日(金)および1月23日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催しました。出席はそれぞれ8人と9人。

【報告】

①医療過誤・訴訟セミナー(12・6)

②Medical English#20(12・12)

【協議事項】

①第3回胸部X-IP読影会(1・30)

②レセプト電子送信の検討会(1・31)

③健康と医療について語り合う会(1・31)

④第20回在宅医療研究会(2・7)

⑤第21回漢方研究会(3・14)

⑥第29回支部総会(7・4)

⑦阪神淡路大震災15周年企画

(1・31)

健康と医療について語り合う会

生活習慣病予防の秘訣を伝授

西宮・芦屋支部は1月31日、尼崎市立小田公民館で「メタボリック症候群について」をテーマに健康と医療について語り合う会を開催。聴覚障害者や手話通訳ボランティアら24人が参加した。阪神ろうあ団体連絡会の要請に応えたもので、昨年に引き続き半田伸夫先生(半田医院)が講師をつとめた。



イラストを交えて説明する半田先生

医療過誤・訴訟セミナーシリーズ⑫

日常的な治療行為が最高裁判所に

日時 4月4日(土) 午後3時～4時45分

会場 兵庫県学校厚生会館

JR・阪神元町駅から北へ徒歩1分。

講師 鶴飼 万貴子 弁護士(米田泰邦法律事務所)

参加費無料 定員100人(申し込み先着順)

日常的に行っている治療行為でも、思わぬ紛争に至ってしまう場合があります。

今回は、簡単に終わった治療の後に患者さんが痛みを訴えてこられ、その後、裁判となり、最高裁判所でまで争われたケースをご紹介します。

判決文の中では、紛争に至った経緯が詳しく認定され、医療行為に対する見方も一審と二審とで異なりましたので、裁判所の考えを知る観点からも興味深い事案ではないかと思えます。(鶴飼 記)

医療安全管理研修の受講証を発行いたしますので、医師・歯科医師・薬剤師はもちろん、事務職・看護師などメディカルスタッフのみなさんのご参加もお待ちしております。

お問い合わせは担当事務局・岡林、伊藤、横山まで

Tel : 078-393-1801 Fax : 078-393-1802